

いり さ

⑩入佐地区(山都町)

- ◆農家戸数 24戸
- ◆農地面積 35.1ha(うち20haは水田)



故郷の元気を山都町から発信！ ～地域の誇りと未来を築くために～

[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 農家の高齢化の進展
- 農業後継者の不足
- 耕米価の下落、機械化等により水稲では儲けられない
- イノシシ、シカの被害が多発
- 水路、農道が老朽化

目指す将来像

- 持続的な営農体制の確立
- 農家所得の向上
- 刀剣「蛭丸」伝説を活用した地域づくり

具体的方策

- 持続的な営農体制の確立
 - ・担い手への農地集積、後継者育成
 - ・農道、水路の更新、畦倒し、ミニライスセンター建設
 - ・イノシシ、シカの駆除、雑木林整備 など
- 農家所得の向上
 - ・稲作共同化によるコスト削減
 - ・暗渠排水による水田の乾田化、新規作物導入
- 刀剣「蛭丸」伝説を活用した地域づくり
 - ・ウォーキングコース整備、直売所・農家レストラン、イベント

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

◆農業者の約半数が65歳以上と高齢化が進み、若手後継者が不足。厳しい現状の中、農地を守り継ぎたいという思いを抱いていた。

◆以前から「中山間振興会」という組織があり、中山間農業モデル地区支援事業でも、中山間振興会メンバーが主体となって「入佐地域営農組合」を設立。

◆地域住民へのヒアリングなどを重ねつつ、農業ビジョンの検討を行っていった。

農事組合法人「入佐」の設立

- ◆平成30年に「農事組合法人入佐」を設立。
- ◆農業ビジョンには法人としての活動案も入れ込んでいくことにした。



農業ビジョンの策定

◆当初は、水路や農道などの農地整備を事業のメインにはしてはどうかという意識。

- ◆田畑の修理要望についてアンケートを実施したところ、件数と種類が膨大でとても手が付けられないと判断。
- ◆個人的な整備より、全体を見据えた整備をした方がいいという考えに至った。

◆一方、法人化する場合、所得確保の手段として新規作物を作付けする必要がある。そのための農業機械導入に活用してはどうかと提案したところ、スムーズに合意が得られた。

ビジョン策定の核心

◆念頭に置いたのは、「高齢になっても継続して農業が営める体制づくり」。

- ◆担い手育成は困難。
- ◆農業者の従事年齢の延伸が必要。

◆機械に頼り、仲間の手助けをし、人を応援しながら自分も応援してもらう農業を展開していかねばならない。

◆法人での作業受託や新たな機械の購入などを検討し、個人負担を減らしていく。

⑩入佐地区(山都町)

故郷の元気を山都町から発信！ ～地域の誇りと未来を築くために～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和4年度):①タマネギ・サトイモの作付を各20a増加 ②消費者との交流イベントを1回/年、開催する

1. 持続的な営農体制の確立

- ◆法人を含めた担い手へ農地を集積する。
- ◆畔倒し等により作業の効率化を図る。
- ◆農事組合法人入佐での雇用等による後継者育成を行う。
- ◆ミニライスセンターを建設する。
- ◆老朽化した農道、水路の更新を行う。
- ◆イノシシ、シカの駆除を行い、ジビエとしての活動を図る。
- ◆田畑をフェンスで囲うとともに、雑木林等の整備を行う。

- ◆農地集積については約47%にあたる19haが完了。継続して集積を行い、農地を維持しつつ、米の販売までできるような体制を作っていくたい。
- ◆畦倒しについては未着手。
- ◆増えすぎた青竹を伐採。間伐した青竹は粉砕機でチップにし、堆肥として活用したい。堆肥舎の建設は2、3年先を目処としている。
- ◆ライスセンターがなく、ミニライスセンターを検討。しかし、実現はまだ先。
- ◆水路、農道老朽化については国の多面的機能支払交付金事業を利用し、別組織として改善を図っている。
- ◆鳥獣被害対策については国の半額補助を使い、転作や罟・電柵の設置などで対処。ジビエ加工品の開発を検討中。

2. 農家所得の向上

- ◆稲作の共同化によるコスト削減。
- ◆暗渠排水による水田の乾田化を行い、水稻以外の作物を作付る。
- ◆新規作物タマネギ、サトイモ等の試験導入。

- ◆稲作の共同化については、令和2年から共同育苗を開始する。
- ◆サトイモは令和元年度25a作付けして収穫済み。タマネギは令和元年12月に10a作付けしており、令和2年5月ごろ収穫予定。

3. 刀剣「蛭丸」伝説を活用した地域づくり

- ◆ウォーキングコースを整備する。
- ◆直売所、農家レストラン(民宿)を開設する。(集える場所としても活用)
- ◆消費者との交流事業等、年間を通じたイベントを行う。

- ◆「蛭丸」の活用までにはまだ至っていない。ウォーキングコースも未整備。
- ◆令和元年にオープンした販売所「ほたる館」では組合の農産物を販売。
- ◆「入佐収穫祭」に協賛。生活者と直接ふれあひがあった。今後も継続予定。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆タマネギ、サトイモ、順調に作付けを伸長中。サトイモの出来は上々で、約50万円の収益があった。令和2年度は作付け面積を30aに広げる。
- ◆農業機械の導入も順調。作業省力化に効果。平成30年度にマルチ張り機、堆肥散布の機械、竹の堆肥を作る竹チップ機械の3台を購入。令和元年度に水田の除草機1台を購入
- ◆「入佐収穫祭」で町内外の生活者と直接ふれあひを体験。

- ◆農地集積については約47%にあたる19haが完了。さらなる継続を行っていききたい。

2. 今後の展開方向

- ◆事業に対して感謝している。まだ始まったばかりなので、挑戦を継続していきたい。
- ◆法人活動の拠点となる事務所の設置が課題。新規就農者への賃金の支援も求められる。